

# 社会福祉法人 仙台市社会事業協会

## “平成29年 仕事始め式”

### 《新年のご挨拶》

P 2～3. 会長、副会長、副会長兼常務理事のご挨拶

#### ～高齢者福祉事業～

P 3. 養護老人ホーム 仙台長生園  
特定施設 仙台長生園  
長生園介護センター

P 3. 葉山デイサービスセンター

P 4～9. 仙台楽生園ユニットケア施設群  
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、ケアハウス創快館、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンターいこい・なごみ、葉山訪問看護センター、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 9～10. 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

#### ～児童福祉事業～

P 10～11. 仙台保育園

P 11. 柏木保育園

P 11～12. 富沢わかば保育園

P 12. 仙台市中山保育所

P 12～13. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

#### ～教育事業～

P 13 仙台理容美容専門学校

## 《平成29年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶》

会 長 千田 典男

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、イギリスのEU離脱やアメリカのトランプ革命があり、世界的に大変騒がしい年でありました。その根本は、フランス革命の自由・平等・人権・民主主義・法の支配といった基本的で普遍的価値であるものの考え方が、一国主義に変わってしまったことだと感じており、今後、日本国への影響も大変厳しい状況になると危惧しております。

さて、昨今我が国の高齢化対策は「施設をやることではない、高齢化対策の根本は少子化対策である」という言い方に変化してきました。これは、高齢化対策を担う若い世代が居ないと支えられないからであります。つまり、当法人は老人部門・児童部門・教育部門があり、正に国の抱える問題に直接関わる仕事をしている訳であります。

職員の皆様、この一年も健康で法人のためにご尽力下さいますよう、本年も宜しく願いいたします。

副会長 佐々木 薫

皆様、明けましておめでとうございます。

今、千田会長からもお話しがあったように、世界各国が保護主義になっております。自分の国だけ良ければ良い、という考えの下に各国が動いている訳ですが、我々福祉はそういう訳にはいきません。各施設、各法人もそうですが、国が勧めている「我が事・丸ごと地域共生社会実現」の政策の基、私達も皆で助け合って生き残ることが大事だと感じております。

今年の酉年の由来を調べてみますと、「運氣や客を取り込む」といった商売繁盛の年に当たるそうです。当法人も間もなく90年周年を迎えます。これまで色んなものを取り込んで来たと思っております。そのノウハウを生かし、法人を益々発展させたいと考えております。

もう一つは「熟す」という意味があります。法人としては、十分に改善や改革の機が熟していると思っております。来年度以降、制度改革等が更にありますので、それに向けて皆さんのお力をお借りして、法人を一緒に運営出来たらと思っております。ご協力いただけることをお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。どうぞ、本年も宜しく願いいたします。

副会長兼常務理事 菅田 賢治

皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年は、いよいよ新年度から法人改革が始まります。待った無しの残り3ヵ月となりますが、これまで法人本部を中心に着々と準備を進めて参りました。そのため今年度の役員会は、例年に比べて、異例の4回目を今月19日に予定しているところでございます。この法人改革は、これまで議決機関であった理事会が業務執行理事会となり、議決機関の権限を評議員会に移し、執行部機能を強化する点が大きく変わる点であります。

昨年末、1ヵ月かけて各施設長から三役でヒアリングを行いました。共通して要望があったことが1つありました。それは「職員の処遇を良くして下さい」という点でした。ご存じのように保育の方は、民間との給与格差を無くすべく、安倍首相が音頭を取り、新年度よりこれまでの処遇改善手当に最低でも2%加算し、主任を中心とした指導的立場の職員には別に手当が付与され、結果2万~4万円の処遇改善を国の施策で予定されております。一方、介護の方も法改正が今年中に予定されており、その中で2%の処遇改善手当の加算の議論がされているようです。また、母子生活支援施設についても、同様に処遇改善がされると報道があり、当法人の事業所では教育部門だけが、処遇改善の改正がないことになってしまいますが、この点に

については、業務に見合うだけに改善を考えております。

先程、佐々木副会長が申し上げたように、一つの事業所だけが良いというのでは無く、法人内の全ての事業所が良くなるように、お互いを助け合いながら事業展開していきたいと新執行部で考えているところであります。

前述したように、今年は様々な形での改革がされていきますので、情報提供を時期を逃すことなく行って参りますので、今年一年、どうか宜しくお願いいたします。

## 養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園 長生園介護センター

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

養護老人ホームは、全国的に被措置者数が減少しており約1割が空床となっています。仙台長生園も10年連続で大きく定員割れを起こし、3年連続で赤字経営を余儀なくされてきました。入所者を増やし経営を建て直すことが喫緊の課題でした。身寄りがなく、経済困窮にある高齢者はもとより、様々な障害や疾患を持つ高齢者、触法高齢者、ホームレス、虐待やDV被害者など、多様な生活課題を抱えた高齢者の受け皿として活用していただくよう、仙台市のみならず宮城県内の福祉事務所や地域包括支援センターを回りお願いしてきました。関係機関の皆様にご理解をいただき、今年度は昨年末現在で17名の長期入所者を迎え、短期入所も1日平均12名と利用者数が大幅に増加しました。養護老人ホームの措置費に加え、特定施設・長生園介護センターにおける介護報酬も新たな加算の算定で増収となり、9月末で経営を黒字に転換することができました。

次に解決すべき課題は、入所者の重度化対応です。現在の入所者の内、要介護・要支援認定を受けている特定施設契約者は全体の6割を超えています。実態に対応すべく、平成29年度より外部サービス利用型から一般型特定施設への指定変更を予定しています。一般型への移行で、介護報酬が出来高報酬から包括報酬になることに加え、新たに4つの加算の算定が可能となり経営の安定が見込まれます。新年度は、介護及び看護職員を増員し、特定施設利用者の増加と重度化に対応できる体制を整えたいと考えております。

仙台長生園の長い歴史で培ってきた伝統を踏襲しつつ、時代と共に移り変わる制度とニーズに対応しうる柔軟性をもって、今年も対象となる高齢者のセーフティーネットとしての役割を果たしてまいります。一般型特定施設としての新たな船出にあたり、職員が一致団結して努めてまいりますので、ご指導ご支援をよろしくお願い致します。

## 葉山デイサービスセンター

所長 小野寺 信也

葉山デイサービスセンターも開所して、間もなく30年を迎えようとしています。現在、平成29年度から始まる総合事業を見据え新たな事業転換を検討しております。

利用者の皆さん、ご家族の皆様から「葉山デイに行くのが楽しみ」と感謝のお言葉を頂いております。また、仙台放送が認知症予防に開発した「脳トレタブレット」も、利用者の皆さんに定着しており大変興味をもって取り組んでいただいております。

本年も家族的は雰囲気、利用者の皆さんとご家族が安心して利用して頂けるよう、きめこまやかなサービスを提供して行きたいと考えております。

職員一同、「あいちゃん」も含めて、今まで以上にサービスの研鑽に努めてまいります。

## 《平成29年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

仙台楽生園ユニットケア施設群は、昨年(平成28年)の12月で12年目を迎え、母体である特別養護老人ホーム仙台楽生園は、今年(平成29年)の4月で30周年になります。この間ご指導、ご協力をいただきました全ての関係者の皆様に心より感謝を申し上げますと共に、これからも末永くご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当施設群は、都市型の地域密着大規模多機能の理念を实践すべく、介護保険10事業と地域交流プラザを運営し、相互に補完し合いながら安定的な運営を維持してまいりました。しかし、これらの多様な事業を推進していくには、安定的な職員の確保が必要となりますが、全国的な課題である人材不足は深刻であり、当法人においても他法人の事業所との差別化を図りながら、職員の確保を最優先に考えていかなければなりません。

平成27年からの介護報酬の減額改定や、介護職員を確保するための人件費等の増加もあり、経営的には厳しいものがありますが、仙台楽生園ユニットケア施設群の理念でもある総合福祉サービスの提供を実現すべく、全事業所が連携して経営効率を高め、人材育成を推進しながら、サービスの質の向上を図ってまいります。

昨年は、「社会福祉法」の改正や「外国人の技能実習法」が公布され、「我が事・丸ごと地域共生社会実現本部」が発足されるなど、様々な施策が目白押しとなっています。また、介護保険から総合事業に移行することに伴う対策も、今年は本格的に取り組まなければなりません。法人事業として社会から評価されるように、より一層、地域に還元できるような福祉事業の推進と社会貢献に力を注いでまいりたいと考えています。

### 《各事業所 新年の抱負》

#### 特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型(多床室)施設と、平成17年12月に開所した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型(個室)施設の特別養護老人ホーム(指定介護老人福祉施設)です。ユニット型(個室)施設は、昨年(平成28年)の12月1日をもちまして、おかげ様で11周年を迎えることが出来ました。

ここ数年来、本当に“介護職員の確保”に苦悩している現実が続いております。一刻も早く国の議論を進める中、アベノミクス・新3本の矢「安心につながる社会保障」のうち、「介護離職ゼロ」を現実のものにして欲しいと願っております。

また、介護保険制度の改正により、原則、新規入所者は要介護3以上の高齢者に限定されたことで中重度の要介護者を支える施設としての機能を重点化することを受け、これまで以上に介護人材の不足から生じる現場職員への負担増と併せ、介護人材の“教育・育成”が重要な課題であることを強く認識する機会となりました。

また「地域包括ケアシステム」の構築から、地域に貢献していく施設になるための検討も求められることから、今後は更に地域支援事業についても、施設として考えることが大切です。

「理念」を念頭に置き、職員一人一人がサービスの質の向上や利用者・ご家族の満足度を創造していくこと、また医療との連携や他職種協働に重点を置きサービスを提供することが今後は更に重要となります。最後に、安心・安全な“生活の場”として、選ばれる施設づくりを目指し、健全な施設運営を推進してまいります。

## 葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

地域交流事業の年間延利用者数は、約 18,400 人の内、喫茶レストラン「茶楽」は約 5,700 人、展望風呂「天空館」は約 3,600 人、理美容室「g g バーバー・美楽る」は約 1,450 人、葉山予防リハビリセンターは約 520 人、葉山の森おもちゃ図書館は約 950 人、地域交流プラザホール利用者は約 2,900 人、ボランティア活動センターは約 1,850 人、実習生の受け入れが約 600 人、その他の地域支援・地域交流事業が約 750 人となっています。また、オレンジカフェ等は約 70 名の認知症の人や家族、関係者の皆様にご参加をいただいております。

昨年より全体の利用者数が 800 人ほど減少していますが、これは、度重なる施設配管の水漏れと入浴機器の故障により長期休業を余儀なくされた展望風呂「天空館」は利用者が激減し、施設利用者の重度化の影響を受けた理美容室「g g バーバー・美楽る」と、委託業者の都合で営業時間の短縮を実施した喫茶レストラン「茶楽」は利用人数の減少が見られました。また、介護を目指す学生数が減少しているため実習生の受け入れも少なくなるなど、上記 4 つだけで 4,000 人以上も減少しましたが、他の事業が伸びたことと、これまでカウントしていなかった地域交流プラザホールの利用者を加えたため大幅な減少は免れています。とくに、地域支援・地域交流事業については、自主活動グループのメンバー増員や、近隣の小中高校生との交流イベントを積極的に受け入れたこともあり、増加する結果になりました。

今後の課題は、各サービスをご利用いただいているお客様の定着化は確実に図られている反面、開設から 11 年が経過し固定客の高齢化も否めない現状ですので、新規利用客の獲得が急務になると考えています。

最後に一億総活躍社会の実現や地域包括ケアの推進に寄与できるよう、今後も継続的に安心してご利用いただくため機器や環境面でのメンテナンスを行うとともに、サービスの新たな展開を企画実施し、更なる利用者数の増加と内容の充実に努めてまいります。

## グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

H28 年のグループホーム楽庵も、入居者およびそのご家族、各関係機関、各医療機関、地域の皆様など多くの方々からのご理解・ご協力を賜り、そして何よりも士気の高いスタッフのおかげで無事に事業を進めていくことができました。安定した質の良いケアの提供を目指し運営を進めていく中で、最も頭を悩ませたのは介護人材の確保でした。次世代を担う人材をどのように確保して行くかは業界全体での課題となっていますが、当施設でも、この職場を大切に思う現場スタッフの負担が大きく、心を痛める日々が続きました。

今年度は、安定した人材確保の道筋づくりを念頭に、「支えるひとづくり」を目標にした信頼と希望の実現を果たす場所として、質の高いケアを提供できる人材育成の体制整備を図ってまいりたいと考えています。

2025 年の地域包括ケア時代の到来に向けて、長年、地域密着型のサービス事業者として地域に向けた発信を地道に進めてきた結果、地域からの反応も温かくホームを見守って頂けているという実感を持つことが出来るようになりました。

今後もさらに信頼を得られるよう地域への発信活動の幅を広げながら、「ひとの想いをつなぐ場所」として各方面へ懸命に尽力してまいりたいと思います。職員ひとりひとりが楽庵の職員としての誇りを持ち専門性を持った先導者として、「認知症への理解」を推進する活動に貢献できるよう進めてまいりたいと考えています。

年々、グループホーム内での高齢化と重度化が進んでいることを日々強く実感しており、ターミナルケアを含めた先進的ケアの実践を行いながら、引き続き最期まで居たい場所に選ばれ続けるように努めてまいります。

## 葉山地域包括支援センター

所長 佐々木 薫

急速に社会全体の少子高齢化が進行していく中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るように、地域の実情に合わせた地域包括ケアシステムを構築することが求められています。

仙台市では、その構築に向けた取り組みの一つとして、平成 29 年 4 月から、介護予防訪問介護と介護予防通所介護を総合事業に移行し、仙台市の事業（介護予防・生活支援サービス事業）として実施されます。来年度より総合事業が始まることを受け、ますます地域包括支援センターが重大な役割を担うこととなり、機能強化専任職員をはじめ、葉山圏域においての地域づくりを重視しながら、地域包括ケアシステムづくりを実施してまいります。

具体的には、①高齢者になっても心身ともに健康で生きがいを感じながら積極的に社会参加できるよう、介護予防・健康づくりの取り組みを推進していきます。（特にサロン活動など）②高齢者の尊厳保持のため、虐待の未然防止、早期発見・早期対応への取り組みを進めながら、成年後見制度の活用を進めていきます。③一人暮らしや高齢者世帯が増加している中、認知症高齢者が増えているので、住み慣れた地域でその人らしい生活ができるよう認知症に対する理解を深めていただき、地域で認知症高齢者を支える体制を作っていきます。（認知症ケアパスの作成とともに地域への発信）④個別ケア会議等を開催することにより、地域の関係機関との連携を強化していきます。⑤4 月から開始される総合事業への移行をスムーズに行えるように、情報収集をしながら利用者への理解を得られるよう十分な説明を行ってまいります。

## ケアハウス創快館

施設長 小船 正明

ケアハウス創快館は、平成 17 年 12 月 1 日に創立 11 周年を無事に迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。さて、この 28 年度を振り返りますと、定員 10 名の創快館の入居者様の暮らしの中に男性の入居者様が 1 名加わり、これまで以上に賑やかな 1 年を送ることができました。特に「和（輪）の構築」として実践している“介護予防体操”と併せ、月 1 回の席替えも取り入れることで入居者間のコミュニケーションの拡大にもつながりました。

運営状況においては、創快館の収支については例年厳しい状況が継続しております。特にサ高住や有料老人ホーム等が隣接するなか、これまでより入居希望者も減少しております。今年も同様の課題が予測されますが、現状も含め基本理念である「創—自ら創造する」・「快—共に心地よい」・「館—住まいと生活」を職員が一丸となって提供出来るよう頑張っていきたいと思っております。

## 葉山訪問看護センター

所長 小船 正明

街に安心の笑顔を咲かせたい！ ～「こころ」「きずな」「くらし」～ を“理念”に掲げ、平成 17 年 12 月 1 日に開所してから、おかげ様で 11 周年を迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。

また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。この 1 年を振り返りますと、当事業所は規模も小さく、大きな病院の後盾もないことから今年度は特に医療サービスの面で苦戦をしている状況にありましたが、訪問看護の基本である、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく生活を送れるように医師や関係機関との連携をしっかりと

と図りながら、サービスを実践して参りました。

今後の「地域包括ケアシステム」の実現に向け、「医療と介護の連携」や「認知症高齢者等の日常的な生活支援」の重要性を認識し医学的な観点、身体のアセスメント、そして生活者としてその人が持っている能力、暮らしを支えていくことが超高齢社会に求められる看護師の大きな役割となります。これからも求められている地域医療への責務を果たしていけるよう取組んでいきたいと思っております。

## 仙台楽生園短期入所生活介護事業所

所 長 植木 祐子

ここ数年、仙台市全域において、有料老人ホーム・サービス付高齢者住宅・短期入所生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所等の開所が続いており、ショートステイサービスを提供する事業所にとって、厳しい運営を強いられた1年でした。長期入所に関しても、特別養護老人ホームの入所要件が原則「要介護3」以上となったこと等により、市内のいずれの施設も入所者の確保が難しくなっています。このことから、今後はこれまで以上に長期入所と短期入所事業の連携を強化し、一体的に利用者確保に向けて取り組む必要があると考えます。

これまで生活相談員を中心として法人内外の居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等との関係構築に努めてきましたが、その中では重度化と医療的管理の必要性がある方々への対応や、緊急対応を要するケース、機能訓練等、多様なニーズにも応えていくことが求められています。これまでショートステイからの発信で在宅での家族介護へのサポートにも取り組み評価をいただいておりますが、このような実践を積み重ねる上では、①職員一人一人の介護実践力をなお一層高めること ②生活相談員・介護士・看護師・機能訓練指導員等関連職種の連携が十分に図れること ③ユニットケア施設群内で共通のご利用者を支援する各事業所とも情報共有し密接に連携・協働すること が不可欠であると捉え、今後も継続して取り組みたいと思います。

昨年は、介護実習及び相談援助実習、認知症介護関連の実習等受入れも行き、介護・福祉を担う後継者育成にも事業所全体で取り組んだ他、法人の新卒採用活動にも一昨年から2年連続で介護士・生活相談員共に関わり、人材確保をテーマに東北ブロック老施協の研究会議の場でも発表の機会を得ることができました。人材育成・人材確保の課題は現場にとっても最重要課題と捉え、今後も法人内外問わず、できる限り貢献していきたいと思っております。

## 楽園デイサービスセンターいこい・なごみ

施設長 植木 祐子

昨年は、閉鎖事業所等からの利用者受入れや、認知症ケアの専門性が求められるニーズに応える形での新規受入れ等、利用者数も順調に増加し、これまでになく高い稼働率を維持できました。その一方で、離職者の補充が思うように叶わなかったり、感染症や怪我・疾患等で同時期に複数の職員が長期間療養したことから、やむを得ず事業所を休業した期間もあり、利用者やご家族からの高いニーズがありながら、人員体制上の問題でお応えできないもどかしさを痛感した年でした。

認知症ケアの専門性向上を目指した事業所内研修の他、認知症指導者研修、その他職種や階層別の外部研修にも積極的に参加し、伝達研修も定期開催して職員間での共有を図ってきました。また、個別ケアを重要視する観点から、パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくケア実践を目指し、講師を招いての事業所内研修、認知症ケア委員会も立ち上げ取組み始めているところです。「くもん学習療法」については、人員体制上の問題から現在休止の状況ですが、利用者の状況と人員体制のバランスをみながら再開を検討いたします。

さらに、昨年は相談援助実習や認知症ケア関連の実習、その他体験学習等についても積極的に受入れ、介護・福祉を担う後継者育成にも事業所全体で取り組んでおり、今後も現場の使命と捉え継続していきたいと考えております。

家族支援の場としての家族交流会は、家族介護者としての情報交換、交流と相談の場として回を重ねる毎に活性化しており、今後もより発展的な運営を目指します。地域に向けては、6ヶ月に1回の運営推進会議が昨年より開催されることとなり、第2回目の会議を終えました。ユニットケア施設群内の各事業所との連携はもとより、地域の中にある事業所をより強く意識して、地域住民の方々や関係機関、小中学校等とも連携を深め、様々ご意見をいただきながら、地域から信頼され、選ばれる施設を目指してまいります。

## 葉山ケアプランセンター

所 長 榊原 泰子

葉山ケアプランセンターでは、地域で暮らす利用者様・家族様との信頼関係を大切にしながら、これまでの暮らしの継続と、安心感のある在宅生活を送っていただけるよう支援することを理念に掲げ、事業運営してまいりました。

介護保険制度の恒久的運用のためには、制度自体が適正に運用されているかどうか、鍵となります。その介護保険サービスをマネジメントする要である、居宅介護支援事業所の評定は、非常に厳格なものとなっています。ケアプラン作成の一連の流れ・人員体制要件等の基準・関係法令の遵守、プランとサービス内容の適合はどうか、利用者の生活の質の向上に資するものかが、常に問われております。葉山ケアプランセンターは、事業内容についても順当であり、加算要件を満たす特定事業所として、保険者より評価いただいております。

制度上の評価も重要ですが、やはり私たちが実際に関わらせて頂く利用者様の声が、真の評価といえます。冒頭に記しました信頼関係構築のためにも、利用者・家族様の声に耳を傾けることを目的に、毎年継続的に、満足度調査(アンケート)を実施しております。今年度は、ケアマネジャーによるモニタリング(月1回以上の訪問)に関する事前調整・説明が十分であったかどうかの内容に、お答えいただきました。皆様からのご返答を起点として、日々の相談援助業務を振り返る、いい機会となりました。

いつも地域の皆様に気軽に相談いただけるよう、又皆様の身近にあると思って頂けるよう、在宅介護の相談支援専門機関として、その役割を果たしていきたいとおもいます。まずは、介護支援専門員ひとり一人が、利用者様の生きることを支援する仕事だと肝に銘じ、“理念”である『信頼と安心』のもと、事業所全体の質の向上を目指してまいります。

## 葉山ヘルパーセンター (介護部門)

所 長 榊原 泰子

葉山ヘルパーセンターは、皆様のお力添えで、開所12年目を迎えることができました。直近の2年間は、人員管理体制について大きな見直しを行いました。主軸職員の入替えを行い、業務効率化や文書管理の見直し等々、原点回帰の良い機会となりました。

「ヘルパーとは?」「在宅生活を支えるためには?」職員会議や経営会議、研修企画ミーティング等、職員間の情報共有と意思疎通の機会を定期的に設けることで、チームとしての成熟度も上がってきました。機会ある毎に、ヘルパーセンターの理念を全員で確認しながら、不安や迷いもストレートに伝え合おう、全員で方向性を共有しよう、そして手を携えて前進あるのみ・・・そんな想いを持った21名のヘルパーが、サービス提供しています。

大卒の業務体制に目を転じると、ユニットケア施設群のデイサービスやショートステイ・訪問看護・ケアプランセンターをご利用頂いている皆様からは、すべての事業所が繋がって

て安心感があると、言っています。

いつも身近にいて、何でも気軽に相談できるヘルパーが、デイサービスやショートステイという社会的楽しみの場への“つなぎ役”を担い、その結果、利用者様・ご家族様が笑顔になっていただける。わたしたちヘルパーも「ここで働けて良かった」と実感する瞬間です。

これからの10年を、ヘルパーセンターとしてどのように歩いていくのか・・・？社会的なニーズ・介護保険制度も転換期に差し掛かっています。これまでの在宅サービスで培った経験知を活かしつつ、今後求められるものは何なのか、情報を集約し、新たな制度やコミュニティに於いても、柔軟に対応できる事業体制を構築していきたいと思っております。

## 葉山ヘルパーセンター（障害部門）

### 所長 榊原 泰子

平成23年12月より、介護保険制度の訪問介護と並行し、障害者総合支援法に基づく、障害児者の方に対するサービスを開始いたしました。現在は、訪問介護事業(居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援)サービスを実施しております。

障害児者サービスの基本には、同性介護の考え方があります。当事業所は、職員21名中2名の男性ヘルパーが在籍しておりますが、男性ヘルパー限定の同性介護ニーズが、たいへん多く、ありがたいことにスケジュールは、ほぼ埋まっている状況です。

また近年は、発達障害を抱える児童の皆様の利用が増えております。特に、小・中学生の放課後の時間をどのように過ごしたらいいのか、ご相談を受ける機会が増えて参りました。児童生徒の皆様お一人おひとりの個性に合わせた柔軟なケアサービスと、保護者の皆様の就業状況にも、併せてお応えするサービスを具体化出来ないものかと、検討を重ねているところです。障害を抱えるお子様の健やかな成長を願うご家族の想いを、ケアという形で実践するためには、更なる専門性が必要です。私ども葉山ヘルパーセンターでは、介護保険事業で培った職員教育のノウハウを活かし、障害福祉関連の研修も並行して計画しております。また、職員の障害サービスに関する資格取得も、積極的に行っております。今後も“事業所の質”と“ヘルパーの質”を高め、在宅ケアの主軸としての役割を、果たしていきたいと考えています。

当事業所の職員の殆どは、五年、十年と長きに亘って仕事を共にしてきたメンバーたちです。地域に貢献するための事業継続は、このメンバーを含め、関係する多職種全員で実現していくべきものだと、強く認識しております。地域の皆様の声を直接伺いながら、これまでも、いまも、これからも、皆様と共にあるヘルパーを目指し続けます。“あかちゃんから お年寄りまで障害のあるひともしないひともし安心してここで生きていこう・・・共に”

## 沖野老人福祉センター

### 館長 高橋 すい子

新年明けましておめでとうございます。

平成28年11月に指定管理者のプレゼンテーション及び面接審査を終え、平成29年4月から指定管理者として、新たな5年間をスタート致します。今まで培ってきた信頼や技術をさらに醸成しつつ、更なるステップを踏み出せるよう職員が一丸となり、利用者の皆様と共に「歩」を進めていく所存です。世界に類を見ないスピードで、超高齢化に突入した日本。高齢者が高齢者を支え共に生き抜く時代に入り、老人福祉センターの社会的役割も少しずつ変化をしていけるよう、フレキシブルな対応を図ってまいります。

沖野老人福祉センターは、地域の皆様又市内にお住まいの方々を対象として趣味活動、教養向上、生きがい作りや交流の場を提供する施設として存在しておりますが、今後介護保険制度改定による影響も考えられますので、視野を広く持ち俯瞰的視点を意識しつつ取り組んでいき

ます。今年も認知症や介護保険制度について、正しく理解して戴くための講話や講座毎月の脳トレ、健康体操等を開催し、多数の皆様にご参加戴ける様、工夫とアイデアで開催します。又、趣味の教室も順調に運営しておりますので、継続して主導していきます。他、利用者様の要望などを多く実施できる様尽力して参ります。

## 沖野デイサービスセンター

所 長 高橋 すい子

老人福祉センター同様、指定管理者として29年度から新たな5年を目指し踏み切ります。平成27年4月の介護報酬の改定により、収支の悪化を多少なりとも縮小させたいと努力をして参りました。その一つが送迎車両3台の業務委託の運転手3人を1人減らし、職員が運転する事でした。しかし、利用率が伸び悩み、改善は捗々しくないため、今年29年1月4日からサービス提供時間を15分短縮させ、職員の超過勤務を減らし、収支を改善させる方向で業務に着手いたします。平成29年4月から、総合事業の実施に伴い直後からではないにしろ、必ず影響をもたらす報酬の悪化に伴う対応を余儀なく受けてしまう事への対策を、法人の道標を基に、又職員と協議しながら、業務の改善と変革をしていく予定です。

加算はなるべくとるようにしましたが、昨年10月までの利用者の推移をみますと、平均16.7人となっており、稼働率が67%と低い位置で続いており定員から見ると大変厳しい状況となっております。利用者全体の4割が要支援者で有ることも大きく影響しております。

今年は営業を強化し、経営基盤を考慮しつつ利用者の皆様には、快適で楽しく過ごして戴き、ご家族様には少しでも介護の軽減化を図るお手伝いをしていきますので、安心してご利用戴きたいと思っております。職員一同、きめ細やかな介護に全力を尽くします。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

## 沖野居宅介護支援センター

所 長 高橋 すい子

ケアマネ2名で業務を展開しております。平成27年5月着任1名、平成28年4月着任1名の男女2名でケアプランを作成対応しております。給付管理件数は、平成28年11月現在、約56件の給付管理で推移しております。地域包括支援センターからの受託業務は、引き続き11月現在で8件受け入れております。今後も、依頼が有れば受託していく予定です。

平成28年に入り沖野居宅の広報の為、広告の掲示をして今までなかったパンフレットを作成し、居宅の存在をアピールすることに力を注いできました。今年も営業を強化し、給付管理数の増加に努めて行きます。又、老人福祉センターご利用の方や、お近くにお住いの方々からの相談にも対応し、地域の皆様に広く知って戴き、必要なときに迅速に対応していきます。

以上三施設、今年も複合施設の利点を生かし、利用者様へ快適に使いやすいサービス提供を目指し一丸となり頑張っていきますので、宜しくお願い致します。

## 仙台保育園

園 長 高野 誠

明けましておめでとうございます。仙台保育園は、昨年4月に定員を60名より110名に増員し、隣地に新設移転をしました。同時に、保育園併設という仙台市では初めての病後児保育室「ぱんだ」を開設しました。3月末までは旧園舎で保育をし、4月からは建物が変わり、職員、園児数が増えただけでなく、新事業の開始と休む暇もなく保育を継続してまいりました。大きい問題を起こすことなくここまで新仙台保育園を軌道に乗せる事が出来たのは、職員集団

をひとつにまとめ上げた主任と職員一人ひとりの努力の賜物だと思っております。

今年は、新園舎での保育が二年目に入りますので、無我夢中で走ってきた前年度をしっかりと振り返りながら、さらに保育の質の向上に努めてまいりたいと思います。

また、1月からは「ぱんだ」において、病後児だけでなく病児も受け入れての病児・病後児保育もスタートします。仙台保育園本体と病児・病後児保育室「ぱんだ」が、二人三脚のように力を合わせ、共通理解を持って今後も保育に邁進していきたいと思っております。

通常の保育だけでなく、休日保育、そして病児・病後児保育と様々な形態の保育を行っている仙台保育園は、法人の理念でもある「いつも希望を、もっと笑顔を、ずっと安心を」を実現したい！を保育園に関わる全ての人々に感じてもらえるように頑張りますので、今後ともよろしくお願いたします。

## 柏木保育園

### 園長 島田 玉江

酉年は慌ただしくなる年であるとの昔からの言い伝えがありますが、戦争や紛争が続いているのを国から致しますと、まだまだ日本は平和なのかなと思わされますね。しかし自然災害の多い日本は東日本大震災の影響がまだまだ継続しており、熊本や鳥取でも大きな地震が次々に起こり、あの日の出来事が思い出されます。又岩手県では今迄では考えられなかった台風の影響での甚大な水害の被害は他人事では済まされません。災害は忘れたころに来ると申します。日頃から備えあれば憂いなしの言葉のように日々の危機管理意識を高め、怠ることの無いように肝に銘じて参りたいと思っております。

さて昨年のはじめは全国より特出して宮城県にノロウィルスが大流行しましたが園では子ども達や保護者の方々にも蔓延を防ぐ為にオモチャや部屋の消毒や手洗いを徹底的に行い職員も奮闘しました年末でしたが、大きく広がらずに安堵致しました。

保育園は子ども達の声が大きく響いてこそ成り立つ場所ですが、年明けの子ども達の笑い声には心の安らぎを覚えますね。

これも一重に保護者の皆様の保育園に対しましての温かいご支援とご協力のお蔭と感謝申し上げます。

柏木保育園は園児数の多い園ではありますが、子どもたちみんなが、元気に過ごしているのは保護者の方々の協力もさることながら、子ども達の最善の利益を守る為に職員一人一人の日頃からの意識の高さが功を奏しているのだと自負しております。

それに奢ることなく今年も日々精進してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 富沢わかば保育園

### 園長 庄子 美智子

比較的暖かな年末、穏やかなお正月でしたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか？年が明け、久々に保育園の友達と顔を合わせて、にぎやかな話し声が聞こえて、静かだった保育園に活気が戻ってきました。

世情と考えますと、子どもを取り巻く現状は厳しく、格差や貧困、毎日のように繰り返される虐待、世界のあちらこちらで起こるテロ事件、逃げ惑う子ども達の姿を見るにつけ戦争のない平和な世の中を切に願わずにはいられません。最近では自分が良ければ良いという排他的な言動等、成す術を見失うような毎日です。私達、福祉を志すものとしてしっかりとした価値観を持って毎日の業務に当たらなければならないと思っております。

児童福祉施設である保育園は子ども達の健やかな成長と幸せを常に願い、保護者と共に責任を持って子どもを育てなければなりません。子ども達はいつの時代も大人との愛情を基本に、

人と関わり合いながら自分を存分に発揮して子ども時代を生き生きと過ごす権利のある存在です。その権利を保護者と共にしっかり守り、豊かな乳幼児期を作っていかなければと思います。

富沢の地域に保育園を開園し今年で26年目となります。地域に開かれた保育園として役割を果たせるよう子どもと保護者と共に今年もより良い保育園づくりを行なっていきます。

新しい年を迎え、新たな気持ちで気持ちを引き締め保育に当たりたいと思います。今年もどうぞよろしく願いいたします。

## 仙台市中山保育所

所 長 櫻間 美智子

いよいよ平成も29年目の幕開けとなりました。本当に月日の経つ速さを実感しながら、ふと周りを見渡すと職員21名中、平成生まれが7名と1/3の職員が平成生まれという事実之又々、驚きの新年スタートとなりました。

振り返ってみればここ数年、年を追うごとに子ども達の生育環境が悪化している中ではありますが、お陰様で昨年も大過なく1年をしめくくる事が出来ました。保護者の皆様、地域の方々、職員と沢山の大人の見守りがあり、そして何より子どもたち自身の力を抜きには語れないことです。社会全体で子どもを育てているという手応えが感じられ感謝の一言に尽きます。

“保育園落ちた。日本死ね！”という言葉に端を発した待機児童問題から保育士不足、保育士処遇の劣悪さまで、昨年ほど保育業界に世間の目が注がれた年はなかったように思います。翻って世界の至る所で大きな変化があり、テロや移民問題、イギリスのEU離脱、アメリカ大統領の交代等々いずれも日本に何らかの形で影響を及ぼしかねず、世界的な不安を感じずにはいられない中、ふと足元に目をやれば国内では少子高齢化や子どもの貧困問題（6人に1人が貧困状態にある。）いじめ、過重労働等々、社会全体で解決していかなければならない沢山の困難が山積です。少しでも良い方向に向かうように、各自がまずは私達大人が自分の果たすべき役割を果たし、子ども達がより楽しく安心して生活が出来、保護者の皆様がホッと出来、子ども達の成長を楽しみに子育てができるよう職員一同務めていきたいと思います。どうか、酉年の今年が誰もが安心して自由に伸びやかに大空を舞う鳥の如く羽ばたける年になりますように願いを込めて

本年もどうぞよろしく願い致します。

## 仙台むつみ荘

施設長 長田 伸一

新年、明けましておめでとうございます。

清々しく、身の引き締まる思いで抱負を述べさせていただきます。むつみ荘は昨年2人の職員と多くの利用者世帯の入れ替わりがありました。そんな中でも皆、大きな怪我や事故も無く健康で無事に一年を終了する事ができました。これも、職員全員の努力と法人役職員のご協力あつての結果であると感謝に堪えません。本当にありがとうございました。さて、現在施設ではまだ人生経験が少なく、支援が未熟な若い職員が多数おりますが、可能性の大きさと捉え、ベテラン職員を含めて初心に帰り、職員教育、施設の運営方針や処遇サービスの基本を確認する事を第一に、昨年に引き続き次の6点を目標に掲げたいと思います。 1 母子生活支援施設業務の専門分野をもっともっと理解する事。 2 職種や職員間のコミュニケーションを更に円

滑にする事。 3 各担当職員の枠（守備範囲）を超えて、互いにカバーする実力を養い、チームとしての支援を確立して行く事。 4 施設内でしか通用しない生活態度や行為等を分析、軌道修正し、自立に繋げる事。 5 支援を計画し実施する場合、中長期的な視野に立ち、点から線そして面に広がる様な支援を心掛ける事。 6 確固たる目標と責任感を持って利用者第一で日常業務に臨む事。 この6つを基本方針として挙げ、福祉法人で経営する母子生活支援施設のメリットと特色を最大限発揮できる環境を整備する事を、私の最終的な目標とします。法人全体では、職員全員が事業所毎に独立採算性が基本である事を強く意識し、一致協力し、意見を出し合い、上層部は各職員からの意見を真摯に聞き、経営責任と説明責任を持って問題を早急に打開していく姿勢が法人としての直近の最重要課題だと思えます。80年を超える歴史のある仙台市社会事業協会を、誇りある法人のまま後進に受け継いで行く事が我々の責務であると強く思います。 以上を法人並びに仙台むつみ荘の新年の抱負として述べさせて戴きました。

## 仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、恒例となりました「第8回全国理容美容学校学生技術大会東北地区予選大会」が7月に福島県で開催され、本校学生28名が出場し、みごと16名が東北地区代表として全国大会の出場権を獲得しました。そして、11月に富山県で行われた全国大会ではお陰様で理容部門「ミディアムカット競技」で銅賞（第3位）、「ワインディング競技」で理容1名、美容2名が優秀賞を受賞致しました。東北地区の理容美容学校の中で第1回大会から続いている全国大会最多出場人数の記録も8年連続に伸ばすことができました。昨年同様、今年もさらに良い成績が上げられるよう職員・学生一丸となって技術の向上に努めていきたいと思えます。

また、即戦力になる人材育成を目指し、昨年完成したサロンワーク実習棟「Senribi - Training - Labo」の活用も、学生達にとっては普段の授業ではなかなか体験できないお店さながらの実習に、新鮮さと緊張感を感じながら充実した時間を過ごすことができました。その効果がどれほどなのか、就職後の理・美容サロンの評価が非常に気になるのですが、昨年の経験を踏まえて今年はさらに充実したサロン実習を展開していきたいと考えています。

さて、現在、理容・美容養成施設の教科課程の見直し（規制改革）が検討されています。その内容が今年中に決まり平成30年には施行される方向で話が進んでいるため、それがどう変わるか正確な情報を一早く取りながら、本校の特色を十分生かせるような対策を考える1年に行きたいと思えます。いずれにしても学校教育の基本は、「教育の質の向上」、「教育環境の充実」、「豊かな人間性の構築」に尽きます。毎年、本校職員全員の共通の思いでもあり、今年も職員一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

今年もどうぞよろしくお願い致します。